

2016年度(平成29年3月期) 決算説明資料

IHI

2017年5月9日

株式会社 IHI



目次

1. 2016年度 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別利益.....	9
特別損失.....	10
連結貸借対照表.....	11
連結キャッシュ・フロー計算書.....	12
補足資料.....	13

2. 2017年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	16
報告セグメント別内訳.....	17

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	21
社会基盤・海洋.....	23
産業システム・汎用機械.....	25
航空・宇宙・防衛.....	27

<参考資料>	29
--------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2016年度 連結決算

1. 2016年度 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2016年度 売上平均レート(米ドル) 108.27円

2017年2月1日公表 業績予想

(億円)

	2015年度	2016年度		増減	
受注高	16,053	14,000	13,898	▲ 102	▲ 2,154
売上高	15,393	15,000	14,863	▲ 137	▲ 530
営業利益	220	380	473	93	253
経常利益	97	180	220	40	122
税金等調整前 当期純利益	▲ 16		180		197
親会社株主に帰属する 当期純利益	15	0	52	52	37

2016年度から、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、当連結会計年度においては、該当する海外連結子会社の会計期間が15か月となっています。この影響により、売上高で252億円、営業利益で27億円がそれぞれ増加しています。

1. 2016年度 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

2017年2月1日公表 業績予想

(億円)

	受注高			受注残高		
	2015年度	2016年度	増減	2015年度	2016年度	増減
資源・エネルギー・環境	5,327	4,100 3,528	▲ 572 ▲ 1,798	8,434	7,523	▲ 910
社会基盤・海洋	1,285	1,200 1,501	301 215	1,943	1,961	18
産業システム・汎用機械	4,218	4,300 4,205	▲ 95 ▲ 12	1,380	1,484	103
航空・宇宙・防衛	5,156	4,300 4,515	215 ▲ 640	5,410	5,110	▲ 299
報告セグメント計	15,987	13,900 13,750	▲ 150 ▲ 2,236	17,168	16,080	▲ 1,088
その他	657	683	26	247	172	▲ 75
調整額	▲ 591	▲ 535	56	-	-	-
合計	16,053	14,000 13,898	▲ 102 ▲ 2,154	17,416	16,253	▲ 1,163
海外受注高・受注残高	7,263	6,155	▲ 1,108	7,579	5,912	▲ 1,666
海外受注高・受注残高比率	45%	44%	▲ 1%	44%	36%	▲ 8%

1. 2016年度 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

2017年2月1日公表 業績予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	2015年度	2016年度	増減	2015年度	2016年度	増減
資源・エネルギー・環境	4,524	4,273	▲251	▲22	▲106	▲83
社会基盤・海洋	1,681	1,577	▲103	▲489	▲120	369
産業システム・汎用機械	4,047	4,116	68	126	175	48
航空・宇宙・防衛	5,002	4,719	▲282	584	530	▲54
報告セグメント計	15,255	14,687	▲568	198	478	279
その他	698	751	52	21	25	4
調整額	▲560	▲575	▲14	-	▲30	▲30
合計	15,393	14,863	▲530	220	473	253

一部の海外連結子会社の決算日を変更した影響については、売上高は「資源・エネルギー・環境」で109億円、「社会基盤・海洋」で3億円、「産業システム・汎用機械」で117億円増加しています。
営業利益では「資源・エネルギー・環境」で6億円、「産業システム・汎用機械」で20億円がそれぞれ増加しています。

1. 2016年度 連結決算

報告セグメント別内訳(営業利益の前年度比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 47	▲ 24	▲ 9	▲ 9	6	▲ 83
社会基盤・海洋	19	354	▲ 4			369
産業システム・汎用機械	▲ 9	50	▲ 5	▲ 8	20	48
航空・宇宙・防衛	6	12	▲ 94	22		▲ 54
報告セグメント計	▲ 31	392	▲ 112	5	26	279
その他	1	▲ 9		11	1	4
調整額		▲ 55		24		▲ 30
合計	▲ 30	327	▲ 112	40	27	253

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2016年度 連結決算 営業外損益

(億円)

	2015年度	2016年度	増 減
金融収支	▲ 10	▲ 5	4
持分法による投資損益	11	▲ 35	▲ 47
為替差損益	▲ 51	▲ 67	▲ 15
その他	▲ 73	▲ 145	▲ 72
営業外損益	▲ 123	▲ 253	▲ 130

期末日レートの変動(米ドル) 2015年度 ▲7.49円 (期首120.17円→期末112.68円)
2016年度 ▲0.49円 (期首112.68円→期末112.19円)

1. 2016年度 連結決算 特別利益

(億円)

	2015年度	2016年度	増 減	備 考
固定資産売却益	286	235	▲ 51	当期：豊洲センタービルアネックス底地の売却等
退職給付信託設定益	63	34	▲ 28	
関係会社損失引当金取崩益	—	16	16	
負ののれん発生益	—	10	10	シールド事業再編関連
関係会社株式譲渡に係る利益	—	7	7	建機事業再編関連
投資有価証券売却益	18	—	▲ 18	
特 別 利 益	368	305	▲ 62	

1. 2016年度 連結決算 特別損失

(億円)

	2015年度	2016年度	増 減	備 考
F-LNG・海洋構造物事業に係わる事業構造改革費用	—	▲ 99	▲ 99	・愛知工場(F-LNG生産設備)の減損損失 ・一部設備の解体撤去費用
債 権 譲 渡 損	—	▲ 98	▲ 98	保証債務履行に伴う㈱UNIGENへの求償権の譲渡損 (3Q債務保証損失引当計上済み)
納入済みボイラ設備に係る和解関連費用	—	▲ 69	▲ 69	・納入済みボイラ設備損傷事故に対する一定の金額負担 ・弁護士費用等
減 損 損 失	0	▲ 34	▲ 33	
工事契約変更に係る補償金	—	▲ 22	▲ 22	海洋構造物事業案件での契約変更に伴う補償
豊洲地下道解体撤去費	—	▲ 20	▲ 20	
契約納期遅延に係る費用	▲ 446	—	446	・ボイラ工事溶接不適合 ・トルコ イズミット湾横断橋建設工事に関する納期遅延損害金
関係会社株式評価損	▲ 17	—	17	
関係会社損失引当金繰入額	▲ 17	—	17	
特 別 損 失	▲ 481	▲ 344	136	

1. 2016年度 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	2015年度末	2016年度末	増 減
資産合計	17,150	16,928	▲ 222
(うち 売上債権)	(4,448)	(4,030)	(▲ 417)
(うち 棚卸資産)	(4,103)	(4,172)	(69)
負債合計	13,816	13,552	▲ 264
(うち 仕入債務)	(2,974)	(2,859)	(▲ 115)
(うち 前受金)	(1,803)	(2,089)	(285)
(うち 有利子負債残高)	(3,745)	(3,719)	(▲ 26)
純資産合計	3,333	3,376	42
株主資本	3,058	3,099	41
その他の包括利益累計額	124	81	▲ 43
負債・純資産合計	17,150	16,928	▲ 222
D/Eレシオ (※)	1.12倍	1.10倍	▲ 0.02倍
自己資本比率	18.6%	18.8%	0.2%
ROIC (※)	2.3%	5.0%	2.7%

有利子負債残高には、リース債務残高(2015年度末:179億円, 2016年度末:203億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産, ROIC=(営業利益+受取利息・配当金)税引後/(自己資本+有利子負債)

1. 2016年度 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2015年度	2016年度	増 減
営業キャッシュ・フロー	953	653	▲ 299
投資キャッシュ・フロー	▲ 355	▲ 289	65
フリー・キャッシュ・フロー	598	364	▲ 234
財務キャッシュ・フロー	▲ 475	▲ 219	255

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	2015年度	2016年度	2017年度(見通し)
研究開発費	416	355	420
設備投資額	508	527	650
減価償却費	467	466	480

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産に係る金額を示しています。

(2) 海外売上高 (億円)

	2015年度	2016年度
アジア	1,804	1,721
中国	784	882
北米	3,366	3,202
中南米	231	264
欧州	1,399	1,161
その他	383	341
合計	7,969	7,574
海外売上高比率	52%	51%

(3) 報告セグメント別内訳 資産残高

(億円)

	資 産 残 高		
	2015年度末	2016年度末	増 減
資源・エネルギー・環境	3,701	4,061	360
社会基盤・海洋	2,597	2,413	▲ 184
産業システム・汎用機械	3,376	3,189	▲ 186
航空・宇宙・防衛	4,820	4,936	116
報告セグメント計	14,495	14,601	105
その他	1,321	1,077	▲ 244
調整額	1,333	1,249	▲ 83
合計	17,150	16,928	▲ 222

2. 2017年度 連結業績見通し

2. 2017年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル 105円
 ユーロ 115円

(億円)

	2016年度 実績 A	2017年度 見通し B	増 減 B-A
受 注 高	13,898	15,000	1,102
売 上 高	14,863	15,500	637
営 業 利 益	473	650	177
経 常 利 益	220	570	350
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	230	178

(注) 2016年度から順次、海外連結子会社の決算期について12月末から3月末への変更を進めており、2017年度も一部の連結子会社については15カ月間の業績見通しとなっております。
また、2017年度より有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法へ移行する予定です。

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)
米ドル 10億円 ユーロ 0億円

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 見通し	増 減
資源・エネルギー・環境	3,528	4,600	1,072
社会基盤・海洋	1,501	1,500	▲ 1
産業システム・汎用機械	4,205	4,500	295
航空・宇宙・防衛	4,515	4,100	▲ 415
報告セグメント計	13,750	14,700	950
そ の 他	683	700	17
調 整 額	▲ 535	▲ 400	135
合 計	13,898	15,000	1,102

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	2016年度 実績		2017年度 見通し		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,273	▲ 106	5,400	230	1,127	336
社会基盤・海洋	1,577	▲ 120	1,500	80	▲ 77	200
産業システム・汎用機械	4,116	175	4,300	110	184	▲ 65
航空・宇宙・防衛	4,719	530	4,400	370	▲ 319	▲ 160
報告セグメント計	14,687	478	15,600	790	913	312
そ の 他	751	25	700	20	▲ 51	▲ 5
調 整 額	▲ 575	▲ 30	▲ 800	▲ 160	▲ 225	▲ 130
合 計	14,863	473	15,500	650	637	177

2. 2017年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	報告期間統一 の影響	合 計
資源・エネルギー・環境	26	296		20	▲ 6	336
社会基盤・海洋		200				200
産業システム・汎用機械		▲ 9	▲ 6	▲ 30	▲ 20	▲ 65
航空・宇宙・防衛		▲ 130	▲ 30			▲ 160
報告セグメント計	26	358	▲ 36	▲ 10	▲ 26	312
そ の 他		▲ 5				▲ 5
調 整 額		▲ 110		▲ 20		▲ 130
合 計	26	243	▲ 36	▲ 30	▲ 26	177

3. 報告セグメント別の概況

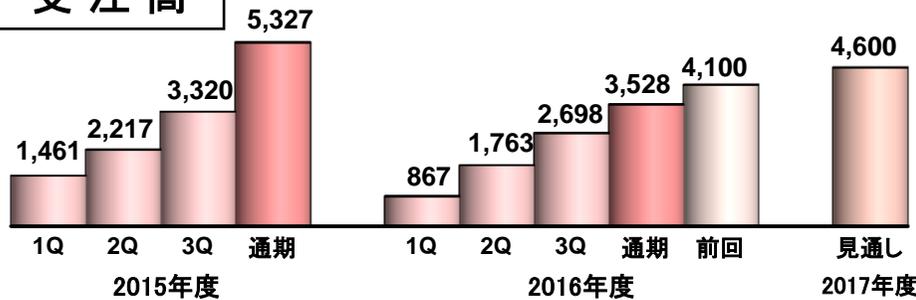
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

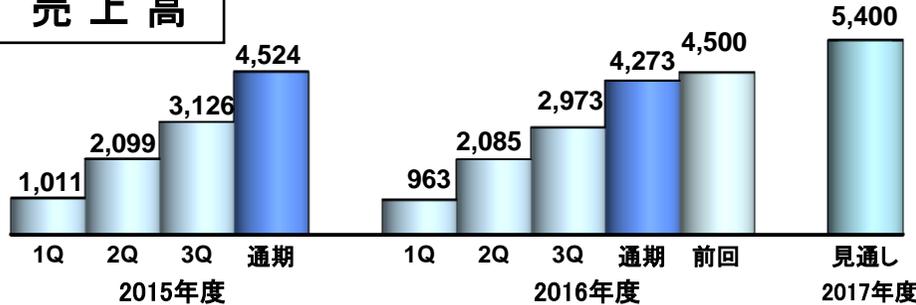
前回: 2017年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント, 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

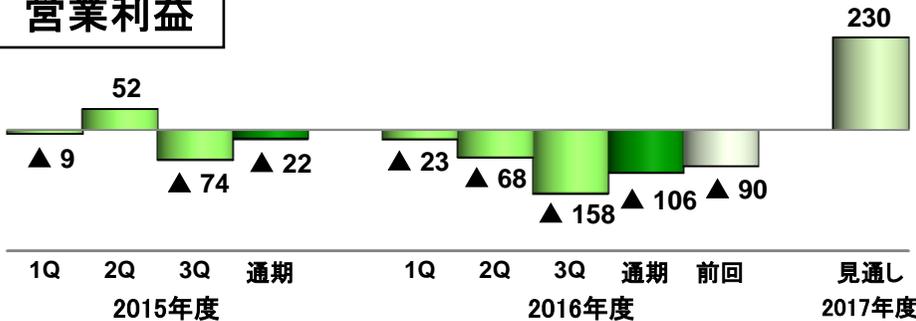
受注高



売上高



営業利益



<対前期 増減内訳>

【受注高】

ボイラやプロセスプラントにおいて前期に大型案件の受注があったことの反動や、原油安の影響によって陸船用原動機の受注が低迷していることにより、減少しました。

【売上高】

ボイラにおいて大型工事の進捗に伴う増収があったものの、プロセスプラントや原動機プラントの減収及び、陸船用原動機の販売減少により、減収となりました。

【営業利益】

ボイラにおいて採算悪化の影響が縮小しましたが、陸船用原動機の減収に加えて、プロセスプラントにおいて北米で遂行中の大型プロジェクトでの採算悪化の影響などにより、赤字幅が拡大しました。

<対前回見通し 増減内訳>

営業利益については、主にボイラ・原動機プラントの採算悪化により減益となりました。

<2017年度見通し>

売上高・営業利益については、主にプロセスプラントやボイラで当期の採算悪化の影響が解消され、増収・増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

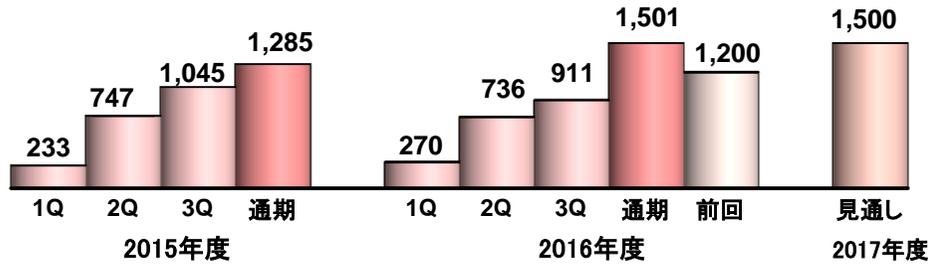
	受注高			売上高								
	'15年度	'16年度	'17年度	'15年度				'16年度				'17年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
ボ イ ラ	1,701	583	1,000	182	447	569	808	245	609	861	1,120	1,500
原 動 機 プ ラ ン ト	221	190	790	43	90	198	318	58	104	140	189	380
陸 船 用 原 動 機	811	611	640	209	376	577	778	133	264	388	583	620
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	1,071	730	910	306	634	951	1,231	215	486	629	943	1,600
原 子 力	386	556	270	38	110	147	325	22	69	127	301	450

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)
 前回: 2017年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発,
 F-LNG(フローティングLNG貯蔵設備, 海洋構造物)

受注高



<対前期 増減内訳>

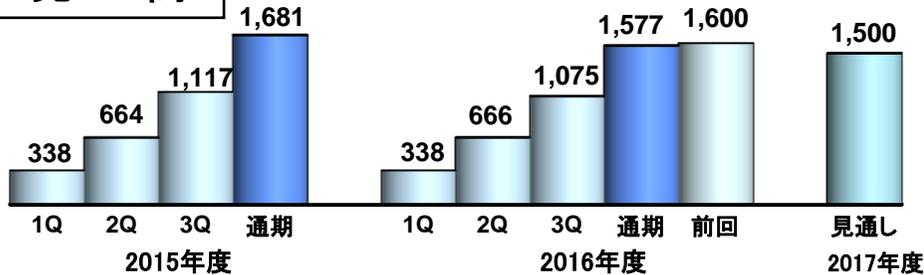
【受注高】

交通システムの増加や、シールド掘進機の事業統合の影響により、増加しました。

【売上高】

事業統合を行なったシールド掘進機の増収があったものの、橋梁・水門でトルコイズミット湾横断橋建設工事が完成した影響もあり、減収となりました。

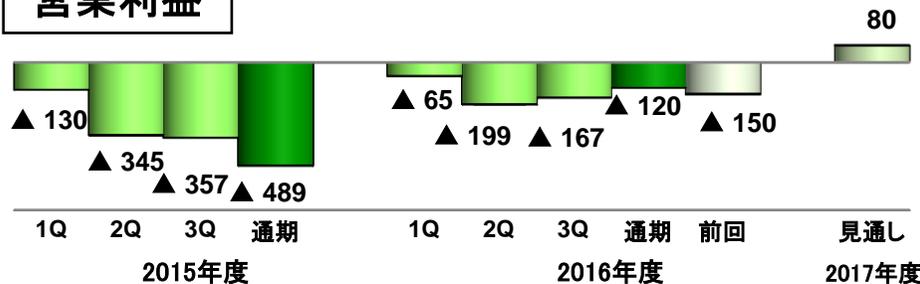
売上高



【営業利益】

F-LNGについては当期で追加コストを計上しましたが、採算悪化の影響は、前期と比べ縮小しました。加えて橋梁・水門で採算が改善したこともあり、赤字幅は縮小しました。

営業利益



<対前回見通し 増減内訳>

営業利益については、橋梁・水門やシールド掘進機の採算改善により赤字幅が減少しました。

<2017年度見通し>

営業利益については、F-LNGに係る損失影響の解消により黒字化する見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高			売上高								
	'15年度	'16年度	'17年度	'15年度				'16年度				'17年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
橋梁・水門	766	710	700	175	337	533	760	150	306	449	672	650
F-LNG	▲ 155	▲ 17	0	36	68	144	214	80	107	146	184	120
都市開発	162	151	170	51	88	127	176	34	71	106	142	170

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P35、P36の<参考資料>をご覧ください。

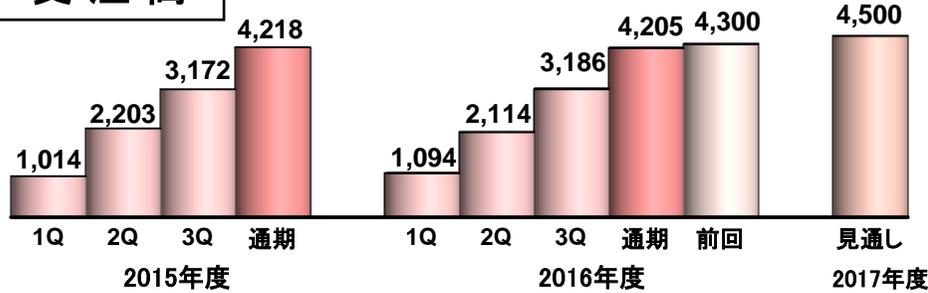
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

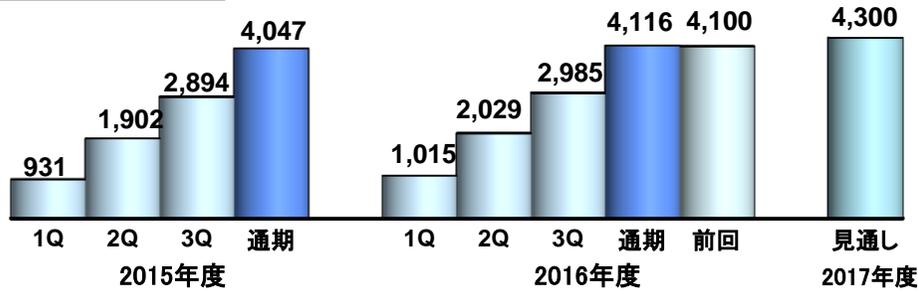
前回: 2017年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 建機, 農機・小型原動機

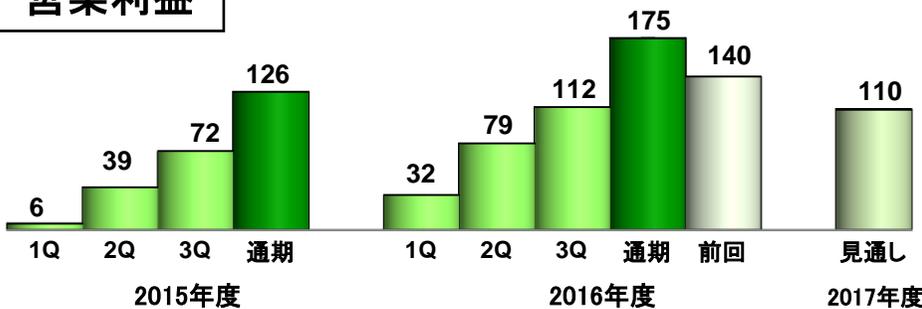
受注高



売上高



営業利益



<対前期 増減内訳>

【受注高】

建機の事業譲渡による影響はあったものの、車両過給機や製紙機械、熱・表面処理の増加により、ほぼ横ばいとなりました。

【売上高】

建機の事業譲渡による影響のほか、農機・小型原動機の減収があったものの、報告期間統一の影響や、物流・産業システムの増収により、増収となりました。

<車両過給機の販売台数> (万台)

販売年度	通期
2015年度	536
2016年度	610
2017年度(見通し)	740

【営業利益】

上記の増収に加え、パーキング、物流・産業システム及び回転機械の採算改善により、増益となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

営業利益については、主に車両過給機における採算改善や、販管費の削減が進んだことで、増益となりました。

<2017年度見通し>

営業利益については、主に車両過給機での開発費の増加や、当期の報告期間統一の影響の反動により、減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

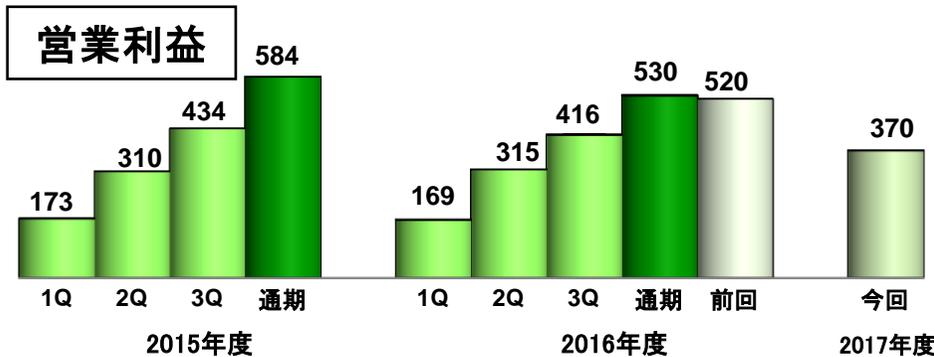
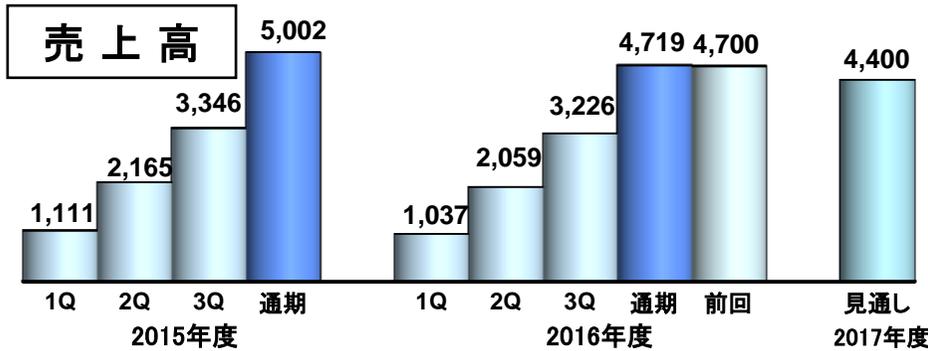
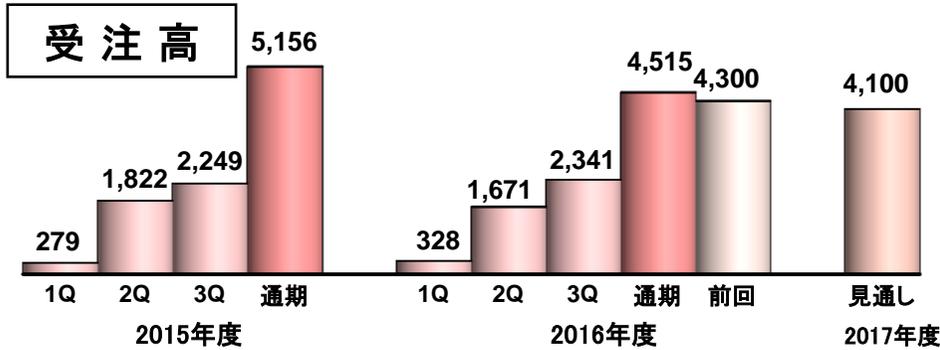
	受注高			売上高								
	'15年度	'16年度	'17年度	'15年度				'16年度				'17年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
運搬機械	358	319	370	35	98	156	218	54	116	165	234	290
パーキング	396	416	480	87	195	298	426	75	184	296	428	440
熱・表面処理	298	352	420	70	145	231	317	78	156	232	323	410
車両過給機	1,620	1,746	1,900	440	828	1,218	1,616	474	868	1,293	1,746	1,900
回転機械	487	480	490	84	194	295	464	103	217	337	482	480

「車両過給機」の詳細は、P34の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)
前回: 2017年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム



<対前期 増減内訳>

【受注高】

ロケットシステム・宇宙利用で増加したものの、前期に防衛省による航空エンジンの一括調達を実施されたことや、為替円高の影響などによる民間向け航空エンジンの減少により、減少しました。

【売上高】

民間向け航空エンジンにおいて為替円高の影響を受けたことなどにより、減収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	通期
2015年度	1,260
2016年度	1,282
2017年度(見通し)	1,300

【営業利益】

スペアパーツ販売の増加や、研究開発費が減少したものの、為替影響や量産初期段階のPW1100Gエンジンの立ち上がりにより、減益となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

営業利益については、航空エンジンの採算改善により、微増となりました。

<2017年度見通し>

営業利益については、PW1100Gエンジンの販売増加や、為替円高の影響により、減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高			売上高								
	'15年度	'16年度	'17年度	'15年度				'16年度				'17年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,761	2,630	2,900	778	1,490	2,242	2,991	698	1,352	2,083	2,915	2,600

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P33の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第4四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2017年4月現在



ケーブル敷設

<進捗状況>

2017年3月末現在で、設計及び機器の発注はほぼ完了し、現在、配管耐圧/気密試験、ケーブル敷設が進行中。プロジェクト全体の進捗率は87%。

<主要工程>

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2017年3月: DCS(プラント制御装置)運転開始
- 2017年中頃: メカニカル・コンプリーション
- 2017年10~12月: 運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転および運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2017年3月末現在

<進捗状況>

2017年3月末現在, 杭打・基礎工事継続中。#1ボイラ鉄骨・バンカ・ダクトを据付中。#1集塵機エリアの基礎引渡し完了。ボイラ部分の進捗は設計:約81%, 調達:約37%, 据付:約3%, プロジェクト全体:約29%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

モザンビーク電力公社向けガス焚き複合火力発電所工事の契約締結

当社と住友商事株式会社は、モザンビーク共和国の国営電力公社との間で、ガス焚き複合火力発電所の一括請負契約を締結しました。本発電所には、当社が開発に参加している、40メガワットクラスでは世界最高性能を有するGE社製航空転用型LM6000ガスタービンを当社の制御装置と合わせて発電パッケージにまとめ、コンバインドサイクルシステムとして納入します。

当社の技術ノウハウを生かして高効率・高品質で環境性能にも優れたエネルギーシステムをアフリカ市場にも提供し、エネルギーの安定供給に貢献してまいります。



「LM6000」ガスタービンコンバインドサイクル発電設備(イメージ)



<超臨界圧ヘリウム循環ポンプ>

世界最大級の超臨界圧ヘリウム循環ポンプの受注

当社は、国際熱核融合実験炉(ITER)向けに、超伝導コイル(磁場生成装置)冷却用の世界最大級超臨界圧ヘリウム循環ポンプ4機と予備カートリッジ2台を受注しました。ITERは、人類の恒久的なエネルギー源の一つとして期待される核融合エネルギーの可能性を実証することを目的に、国際共同プロジェクト(日・欧・米・露・中国・韓国・インド)としてフランス南部に建設される実験炉です。当社が有する最先端の極低温回転機械技術により、今回の超臨界圧ヘリウム循環ポンプの開発に成功しました。

世界各国に多数納入実績があることも生かし、今後とも大型超伝導磁石の応用機器へ適用可能な極低温回転機械の開発に取り組んでいきます。

技術開発本部 新実験棟建設

当社の主要生産拠点ならびに技術開発拠点である横浜事業所内の技術開発本部に新実験棟を建設します。今回建設する新実験棟には、ICT・ロボティクス技術、材料技術、制御・電機技術や、水素・アンモニアバリューチェーンのコア技術など、実験場内に分散している強化分野の実験機能を集約し、将来に向けた技術開発力を一層強化していきます。また、社外パートナーやお客さまとの共同研究に利用可能な連携スペースや、製品展示・デモを行なうエリアを設置します。

新実験棟の活用により、オープンイノベーションをさらに加速していきます。



<完成予想図>



ICT活用のイメージ

ICTへの取り組み

当社は、「グループ経営方針2016」に基づき、ICTを活用してビジネスモデルの変革を進め、新たなお客さま価値を創造する取り組みを行なっています。

その一環として、製品を利用されるお客さまの利便性を高めるため、グループ共通のリモートメンテナンス共通プラットフォームILIPS (IHI group Lifecycle Partner System) を整備しました。世界中のお客さまに納入した製品に対し、ネットワークを通じて稼働状況を常に監視し、故障の予兆を事前に捉え、予防保全を行うなどの高度なメンテナンスサービスの提供を進めています。民間航空機エンジン整備部門においては、ILIPSを活用し、運航中のエンジン性能データを収集することによる運航費の削減や、エンジン整備の時期・仕様の最適化など、運航から整備までトータルとしてサポートするサービスを提供しています。

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績												見通し '17年度 通期
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度				
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	778	1,490	2,242	2,991	698	1,352	2,083	2,915	2,600

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx							118	259	468	751	1,035	1,295	ボーイング B787/B747-8
PW1100G											16	148	エアバス A320Neo
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	

(注)販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績												見通し
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度				'17年度 通期
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
日 本	331	339	353	375	84	172	255	346	85	180	274	389	360
ア ジ ア	169	248	298	275	78	129	166	216	66	96	127	158	120
中 国	143	181	234	243	71	118	179	249	118	205	343	485	570
北 米	11	13	16	18	5	12	18	24	13	19	25	33	60
中 南 米	0	0	0	7	8	16	24	34	29	43	50	61	80
欧 州	437	432	602	756	192	378	573	743	160	322	471	617	710
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	440	828	1,218	1,616	474	868	1,293	1,746	1,900

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績												見通し
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度				'17年度 通期
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
賃貸収入	95	92	91	93	25	50	76	101	23	46	70	93	91

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
2016年度	93	35	24	32

(3) 豊洲地区 賃貸用不動産の期末時価評価額等

(億円)

	連結貸借対照表計上額			期末時価	期末時価 — 期末残高
	期首残高	期中増減額	期末残高		
2016年度	631	▲ 32	599	1,725	1,126

(注) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。
 期末時価は、社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づいて算定した金額です。

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

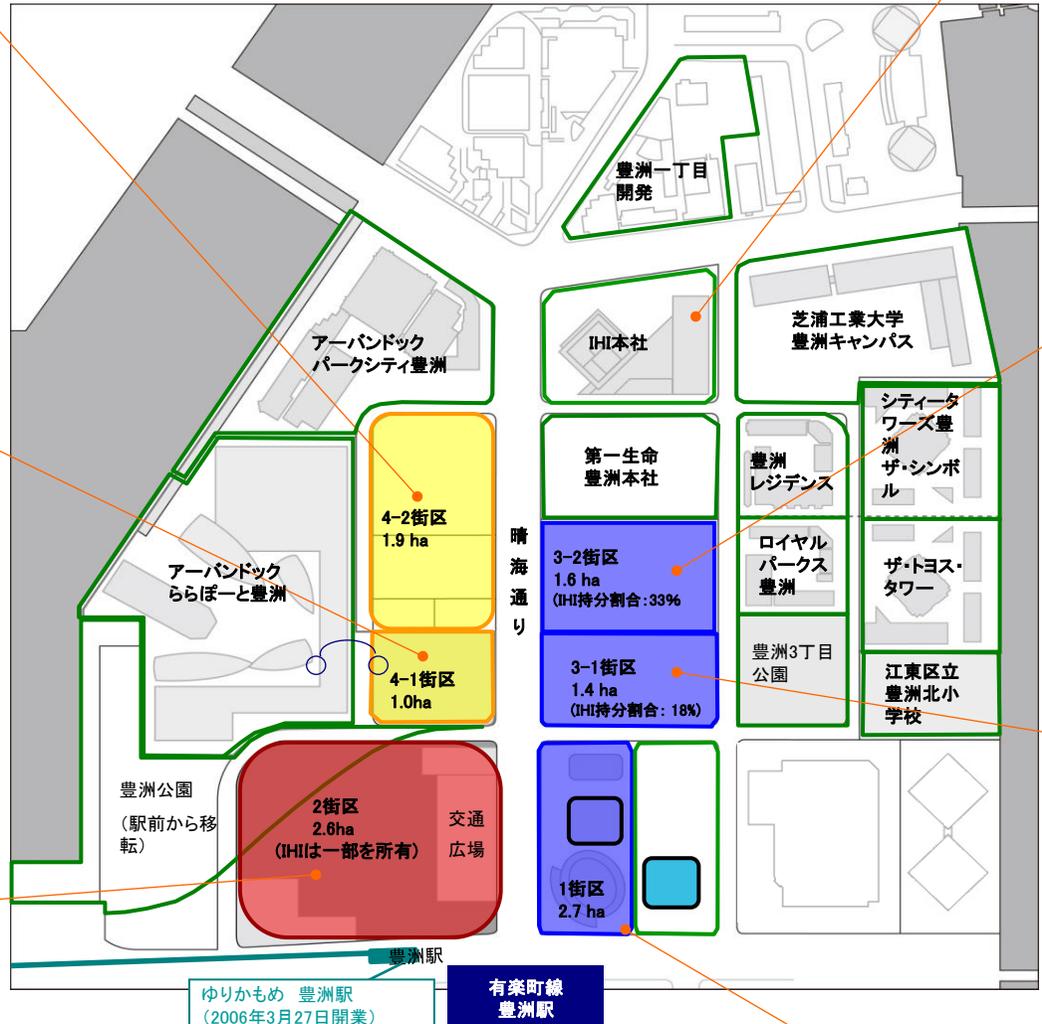
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定

豊洲IHIビル
地上25F, 高さ: 約125m, 延床面積: 97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ: 約75m, 延床面積: 101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ: 約75m, 延床面積: 106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ: 約165m, 延床面積: 100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ: 約150m, 延床面積: 105,448㎡
2006年8月竣工

シビックセンター棟: 2015年9月開業
消防署棟: 2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。